



あさぎり・おおくら



きんじょう・きぬがわ



にしあかし

# 地域総合支援センターにおける総合相談



おおくぼ



うおずみ



ふたみ

# 地域総合支援センターの体制（R3.4.1現在）

センター	あさぎり・ おおくら	きんじょう・ きぬがわ	にしあかし	おおくぼ	うおずみ	ふたみ
保健師・看護師	3	2	2	4	2	1
社会福祉士	3	3	5	7	4	2
主任 介護支援専門員	2	2	2	2	1	1
小計	8	7	9	13	7	4
その他	9	7	8	13	5	3
計	17	14	17	26	12	7

総合相談件数 (R2年度)	8,296	5,672	8,769	10,143	7,213	2,857
圏域人口 (R3.4.1)	43,333	34,514	62,846	84,432	48,896	30,168

## 初期相談

- 相談支援の入り口として、本人、家族、近隣住民や地域のネットワークなどを通じた相談を受け付ける。
- アセスメント（情報収集）を行い、関係機関や各種制度の利用につなげるなどの支援を行う。

## 継続支援

- 初期相談において、専門的及び継続的な関わりが必要と判断した場合に、対象者の課題に応じた目標を設定し、支援方針を作成して、支援を行う。
- 支援を継続するなかで対象者や関係機関から定期的に状況を把握し、適宜支援の必要性などを評価する。

# 地域におけるネットワーク構築

- 更なる問題の発生を防ぐことができるよう、地域団体、サービス提供機関、専門機関などの社会資源の把握を行い、地域における様々な関係者のネットワークを構築する。
- 認知症サポーター養成講座の開催、高齢者虐待防止の啓発など、様々な形で制度等の普及啓発を行い、相談につながるよう、地域総合支援センターの周知を行う。

## 主な相談者

- 本人・家族
- ケアマネジャー、医療機関等
- 近隣住民等

## 主な相談内容

- 介護保険関連（サービス利用の相談、認定申請の支援など）
- 生活困窮の相談（無職、負債があるなど）
- 複合多問題（親が認知症、子がひきこもりなど）

はい、Aセンターです。  
息子さんの件でお悩みなんですね…  
なるほど、息子さんは精神科に通院していたけど、B病院から心疾患の治療で手術が必要と言われてショックだったのか、精神科へ通院しなくなってしまったのですね…





20歳前後	大けが→治療に複数年かかった。同時期に統合失調症発症
その後	就労支援サービスにより作業所に通いはじめる。（通い始めの時期は不明だが、かなりの期間通所継続していた）
2021年夏の初め	B病院へ救急搬送される。B病院への通院が始まる。作業所への通所、精神科への通院が途絶える。
2021年冬の初め	B病院で手術予定となる。家族が自宅を訪れてもドアを開けなくなった。

## センターとしてとらえるこの事例の問題等

- 本人は手術が必要な病状であること。
- 本人は精神科受診ができておらず処方薬の服用も出来ていない状況であること。
- 本人が支援を拒否しているようであること。



B病院での手術に向けて、まずは精神科を受診し必要な治療を行うことを最優先に進めることとしました。



# センターとしての具体的支援方針

○精神科受診に向けて、本人にどのように受診を勧めればよいか、具体的な方法等について保健所に相談する。  
過去に利用した作業所等に問合せ、本人の人となりなどについて情報収集する。

○お母さんの住む地域を担当するCセンターへ問合せ、お母さんの状況等の情報収集をする。

○関係者との情報共有に向けて、生活保護担当ケースワーカーへ状況を報告する。

## 再びお母さんから・・・

今日、精神科の受診予定日で、「行こう」と呼びかけたけど、息子が『行かない』って。精神科の医師から「患者を連れてこないとどうしようもない」って言われた。息子はセンターの職員さんとは会わないと思う。



当初の予定通り進めることに



## センターが確認してみると

方針	対応結果
お母さんの状況を、お母さんの住む地域を担当するCセンターへ問合せ、情報収集する。	お母さんはお住まいの地区のCセンターと介護予防支援でのかかわりがあり、特に変わった様子はないと聞く。
関係者として生活保護担当ケースワーカーと情報共有する。	現在相談支援専門員はついていない。ケースワーカーとして一度自宅訪問してみると返答を受ける。お母さんにお金や食料を無心に行かれるのではないかとお母さん側のリスクを共有

## お母さんがAセンターへ来所

生活福祉課からフードドライブの紹介を受け、お母さんと本人がAセンターへ！しかし、会えたのはお母さんのみ。本人は入室されず・・・

いま、本人は地域で孤立している。友人もいないと思う。私も若くない。本人のこの先の生活が心配でとにかくなんとかしてあげたいと思う。この子の居場所は地域にないだろうか・・・



## その後

本人からは「野垂れ死んでもいい」といった言葉も聞かれ、支援を受け入れられない状態のまま、センターとして踏み込んだ関わりができていく現状が続くのではないかと悩んでいましたが、先日、障害分野の関係機関に相談したところ、関わりの糸口を一緒に探してみましようとの申し出がありました。

わずかずつであっても、本人との関わりが持てるよう、関係機関と連携しながら支援に取り組んでいきます。

# 地域総合支援センターにおける総合相談の今後

## ○丁寧な相談対応

住民に身近な相談窓口として、複合多問題世帯の相談も含めた様々な相談を丁寧に聞き取り、住民に寄り添った支援を行います。

## ○職員の総合相談の対応力・支援の質の向上

年代や分野を問わない「福祉まるごと相談」に対応するため、職員の総合相談の対応力・支援の質の向上に努めます。

## ○関係機関等との連携・ネットワークの充実

センターで受け止めた「福祉まるごと相談」について、よりよい支援につながるよう、関係機関等との連携を図り、ネットワークの充実に努めます。